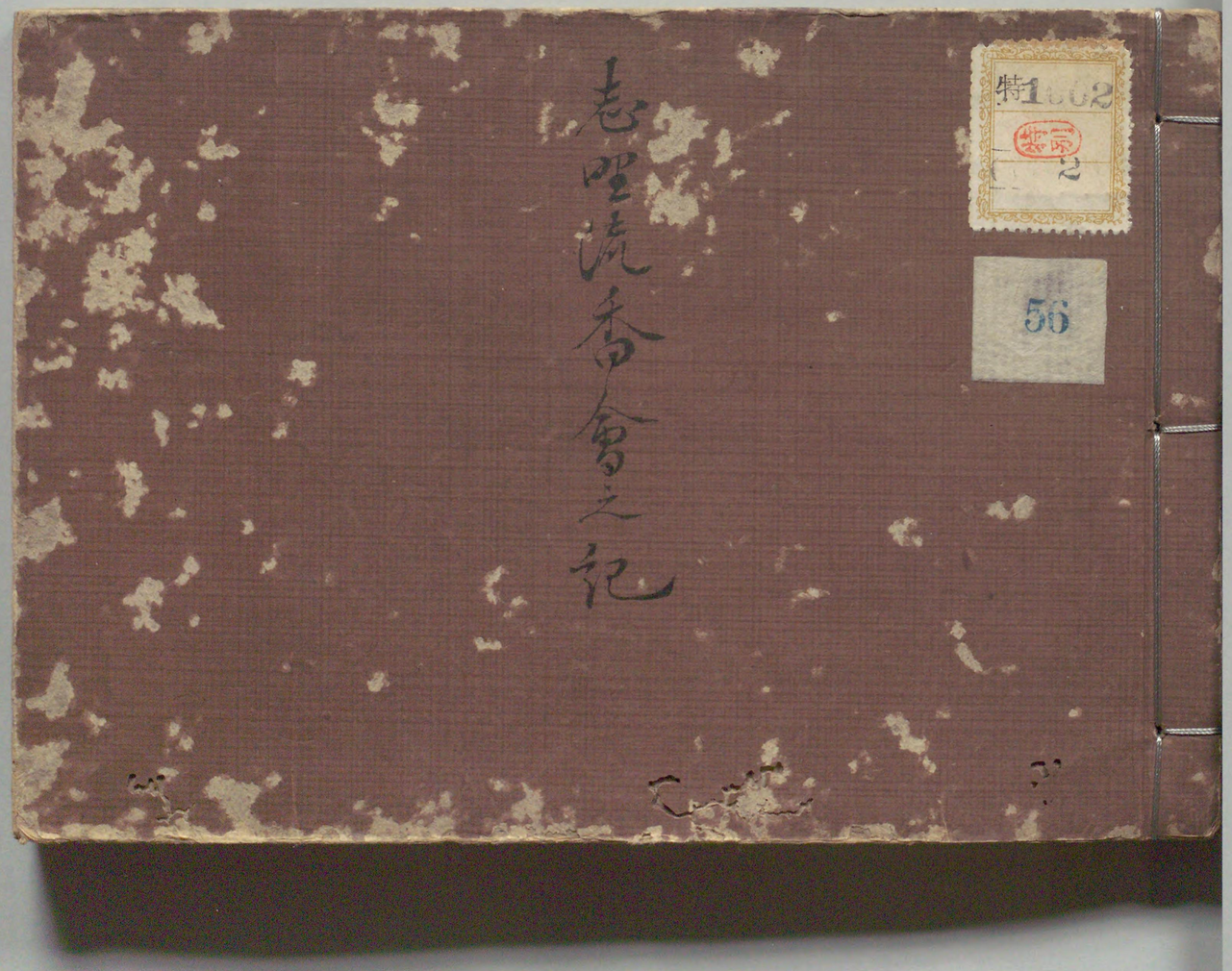

志野流香會之記

特1002
1部2
56

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

帝国図書
145

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

一志野流香道之意
上々代ゝ御相傳ゝ秘
国文庫
昭和十年
帝國大學圖書

852-73

別紙半有之候ハゝ速相
添可申事
一師家ゟ法体ニ下し之書
対法形之書乃奥等ニて
師家ニ法ゟ他ニ之写
申事ニ堅く相慎可申事
一故障ニ成候ハゝ書通ニ之和法
法ゟ下し之書写并書通奥等
悉皆延事永香席ニ
更申ニ及ハ事
右之條々於相背ニ者
ゟ神徳別而北野天満大自在
天神宮梵天帝釈四王
可蒙神罰冥罰者也仍而
神文如件

年号月日

峰谷式社殿傳来

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

香席法則禁制定

一香會無組織ニ而ハ諸事ニ不都合ニ付
此度ニ而ハ組織ヲ設ケ其事
會事ニ用ル又ハ
時宜ニ依一ツヽ

一會席日割ニ而ハ遠方ニ而
相勤ル事

一同會ニ而ハ師匠ニ一禮
終リテ書院ニ而
ハ一次ニ來ル
會釈一ツニ而

書院錺師見えず候間
口文書師に渡すべし

一同會亭に越先座席を見
そなえ主客通の敷
物紙を庭に有
一同會亭に人数揃ひ先座
一座ゝ高下なく揃ひて先
来ゝ人より差有
亡貴人宗通ひて名刺
右之當家今日ゝ
若し於他家ゝ
来客ゝ可為名刺

一香木之名所縁の執筆
記録を認むべし
指授有ゝ先輩ゟ
立座定可有ゝ

一香木の風式禮指授ゝ
其用ゝ雑談等堅仕
ゝ

一同亭主香木ハ勿論一
禮式終ゟ上座ゝ可有
必上客ゟ末中間ゟ
指授無之候ゝ

一同香ニ而客ニ答ル事不快
合強弱ニ而勝負ヲ定ル事非雅客
中間補組宗匠ニ而ハ依時宜
可為勝負
一香ニ而負ル札ハ香或ハ紙ニ
筆ニ而誤ヲ記シ又誤ノ
多キニ而負ヲ極ル事
一誤ル毎ニ又ハ毎杯
走リ込ノ如キ事ハ
不可有之事

一香ヲ聞テ三息
息ニ而ハ不可有之又ハ
早ク安ク座敷ヲ早ク
こいつまで
一香炉ニ廻リ兼ル時ハ
不申ニ及ス連中ニ
預ケ渡可申
一香終リて名札ヲ
定廻ス一座揃リニ
不申事
一同會席饗應ニ而勝負

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

香事海矣之所到
順一春雨有事一

以上

右十五箇條者香席注意
大概耳之外不注者数多
大略記者也

正

香札之歌

梅
柳
桜
橘
竹
萩
菜
葵
松
雲

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

庭花
茅菖
野萩
楷梗
黄菊
落葉
寒梅
水仙
竹

垂柳
山橘
芳竹
廬橘
牡蘂
白菊
紅葉
冬仙
寒梅
雪雲

永梅
庭橘
山茶
芳蘭
雪牡
黄菊
野萩
冬葉
水仙
雪竹

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

麝蘭
芍薬
花橘
白菊
和葉
水仙
立秋
山橘
李梅
老李

若竹
夏橘
牡蘭
和葉
水仙
峯杜
立秋
李梅
山橘
卯花

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

六

常夏
糸萩
小菊
丹楓
水紅
雪雲
吳竹
石榴
吉柳
山櫻

七

朝顔
吉萩
黄蘭
石蕗
水紅
雪松
吳竹
石榴
吉柳
山櫻

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

糸萩　野萩
白菜　小萩
石竜　黄菊
水仙
寒梅
雪松　山橋
書梅　紫苑
山橋　若艾
芍薬　麦門冬
花橋　岩垂
葛籠

白菜
石竜
水仙
紫梅
芍薬
芍薬
青柳
山橋
麦門冬
立橋

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

十

殘葉
水仙
臺梅
吉梅
山橘
蠟梅
烏瓜
長竹
岩松
梔梗

十一

水仙
落葉
白梅
吉柳
忘草
烏瓜
古夏
芭蕉
秋葉
黄菊

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

十二

寒梅
雪柳
李卿
山橋
杜若
芍药
夏菊
小萩
初楓
新芍

香名集

六十一種
二百二十種
二百種

法隆寺　東大寺
逍遥　真芳野
紅塵　枯木
中川　法華経
盧橋　八橋
園城寺　似蒲
富士煙　菖蒲
般若　鸚鵡
青梅　揚貴妃
飛泰　種ヶ嶋

漂湾　月
竜田　紅葉賀
斜月　白梅
千鳥　臘梅
八重垣　花ノ宴
花雪　明月
賀　法華
蘭子　阜
橘　花散里
冊霞　花篭
上ル薫キ　濱摩

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

明石　十五夜
隣家　手枕
夕時雨　有明
雲井　紅
初瀬　梅
二葉　寒梅
霜夜　七夕
寢覺　凌農
薄紅　薄雲
上り馬

六十一種終

百二十種名香

八重菊　芙蓉
山陰　黛
稲柴　十九
縮　芳村
寸代　鳴金
帶　若菜
真葛　端午
轉寢　日影花
烏醬　小糸
元臘梅　面影

獻

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

雉子
常徳院
人
烏角木
黒香
十六夜
五月雨
梅風
牡丹
曙
御幸

朧
硯
鏡
池
歳
小
大
万
山下風
初
片
水
暮
倉
内
代
雪

玉章
扇
手向
新撰芳野
春風
淺緑
秋風
九重
空蝉
新枕
山風

初
上
雪
小
清
野
深
尾
雪
秋

二文字
野
曙
上衣
過
風
野
巻
菊

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

春日野
軒梅
白浪
女良花
木ノ下
紅梅
玉蘭
姥玉
宮城野
淡水
藥玉

鸎
朝露
紅葉
花蔭
園
晩
新
黄昏
夢
夘
花湊
枕
帋
木花

大麻
初鴈
冬野
浮嶌
暗香
梅雨
大炊川
古川
男山
春濱
河浪

最中
連
玄
探
清
新樹
名越野
翁
排
朝氣花
桃

梅香
々

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

楫枕　名殘袖
浮舟　橋姫
荷葉　中春圖
唐衣　三笠
桶　水葱
十六枕　香久山

百二十種名香終

二百種銘香

宮一　青山
神樂　春山
朐　磯山
薄紅葉　小山
苅萱　夕山
小春　山嶋
雜景　暮雲
岩枕　女房
仙　吹雪
立舞袖　御幸
御竹　麟角

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

逢坂　松戸　繪花溪　幽蘭淀　遠景馬嵐　理竹桂月　滿

塩屋　孔雀　竹林　音羽川　陸奥　雪　作風　嵐　青葉　月　房州　楓

雲　抄　苗
羽　衣　舟山
清　水　夜
鹿　嶌　頭
洞　庭　鵜
稲　荘　川
花　水　郷
鈴　鹿　雪
小田守　戀
若　杉　古
桂　林　庭　春　園　冬　夏箕川　殘　桂

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

言寺
宇治
白雲
朝明
裾野
鳳毛
松風
埋木
三ヶ月
玉川
田面

手有
増
送月
五更
一声
鳥羽田
節
癸
圖碁
野々宮
訪
友

小榮
夕良
遠矢
麒麟
薄氷
二見

夕日
別

夕月夜
松雪
雪中

白
夕
樓
鳥

綾
踏
浪

八
花

関ノ戸

私
語

皇
宮

簪
長安月

春
霄

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

臘雪　楚
海棠　南
落葉　林
松葉　石帶
花　籠
薄　野
春蘭　一文
碧桃　秋
仙風　榊
杜若　難
名越　真蓴波

流山雨帶江守字山

掉姫　春濱
夏草　玉葛
寢乱髪　野分
淺芽　花林
洞流　武藏野
掉庵　雪江
林雲　梅
窓梅　梅
庭櫻　江
林雪　野
三冬　林
小忌衣　分
　　葛
　　濱

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

捲戸久露
梅月春鶯
海月凉濱
鳳凰暁忍
塩路寒梅
鷁首更菅
寒月枕山
洞庭品月
山川萩
湖月
吾妻

摘菊草遊
秋草
竹取
林鶯
菊
夕露
霖雨
初衣
都映更
雨氣花
苗代

柳色
推ヶ本
六月
隠
暁
名
浦
名
山
陰
越
雪
衣
風

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

古代
香之記

麝香　田雷鶴
二百種銘香終

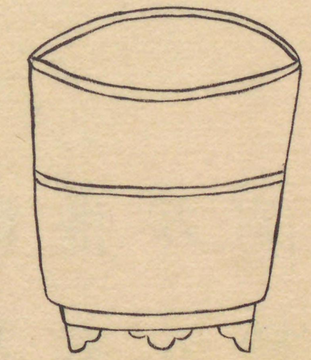
国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

香爐圖

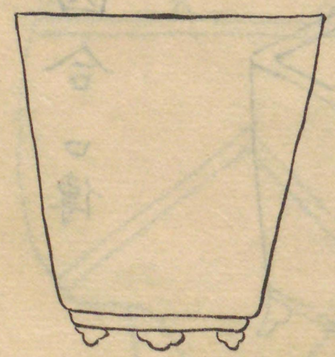
聞香炉

灰五合



桶ガハ香炉

灰五合

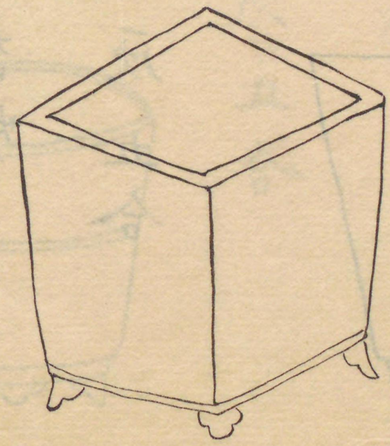


国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

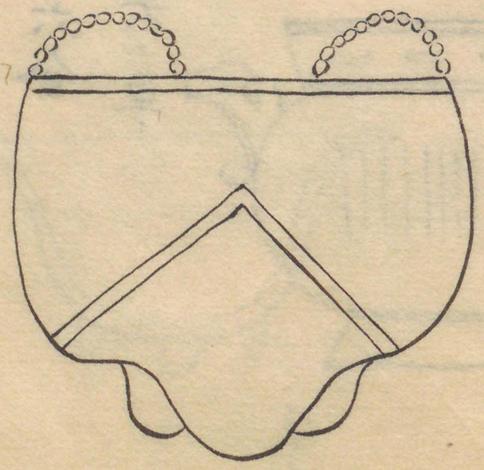
四方香炉

灰四合 口傳



たすき香炉

灰六合 置所口傳



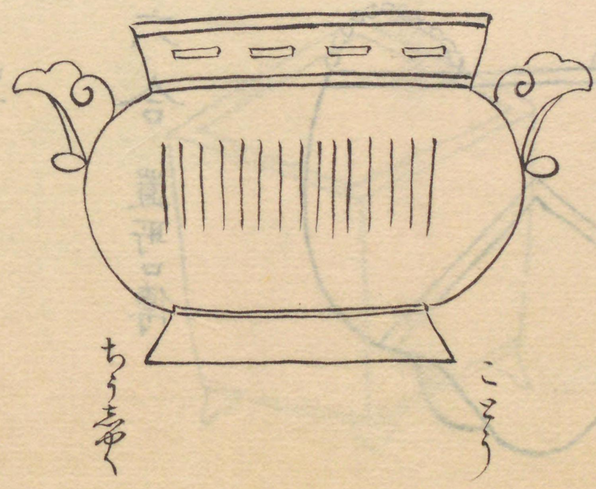
国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

すゑこ香炉

灰六合

置所中央ノ卓

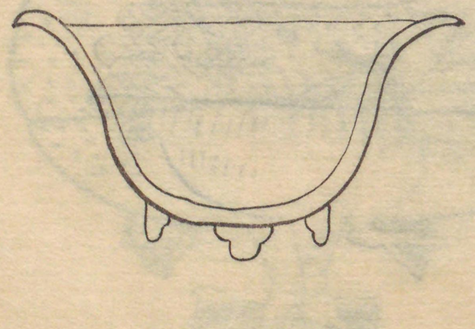


こそう

ちうきやう

火鉢香炉

灰六合



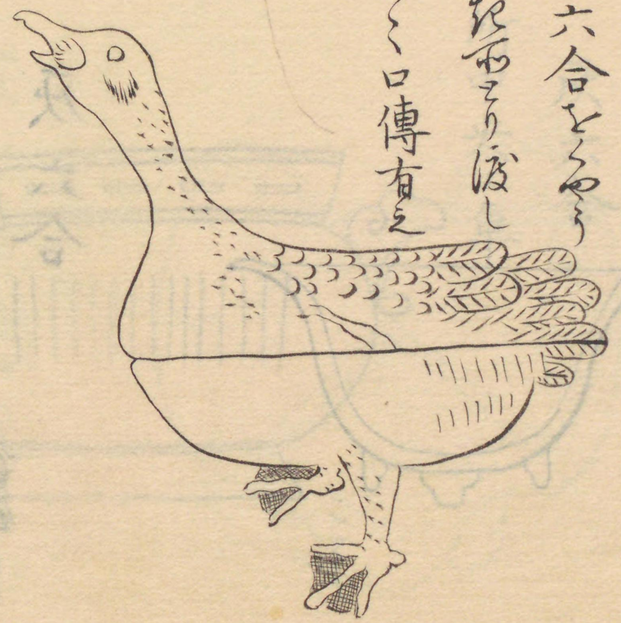
是別の香爐

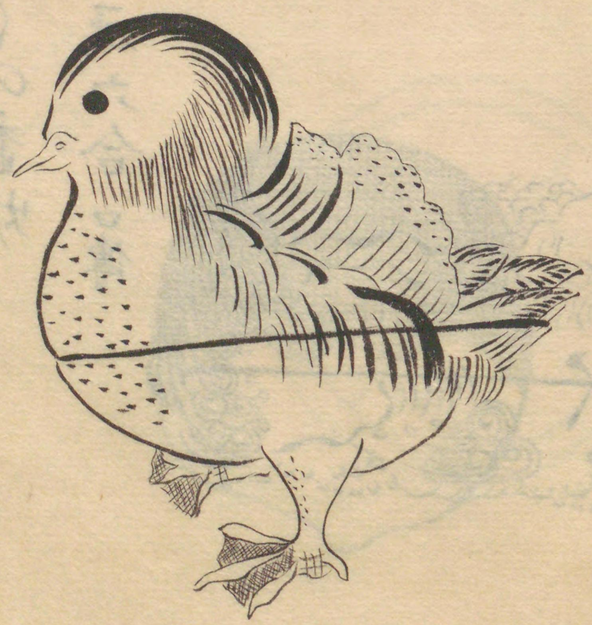
国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

鴨香炉

灰六合をもり
をおもり
ふたゝ口傳有之





かもの香炉

灰六合　口傳

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

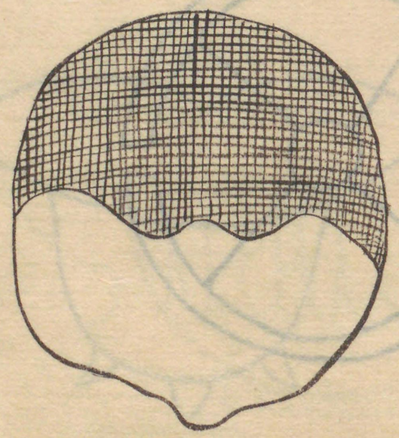
ガラス使用

きゝの香炉

灰六合 口傳

火ろり

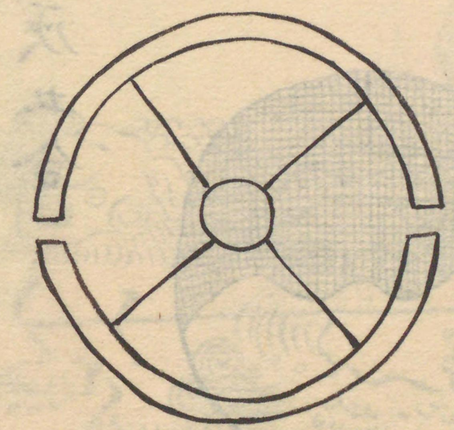
灰五合



国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

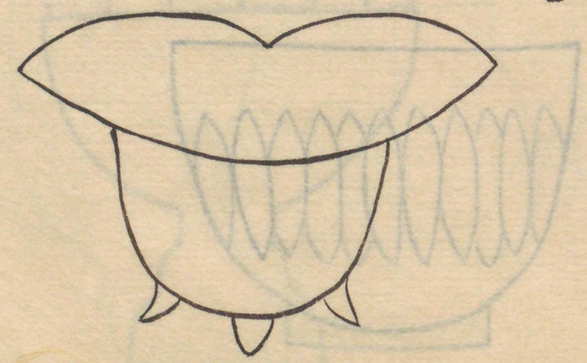
灰立合



船香炉

一葉ともゝ云

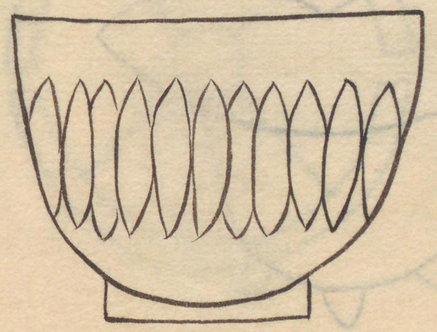
灰立合

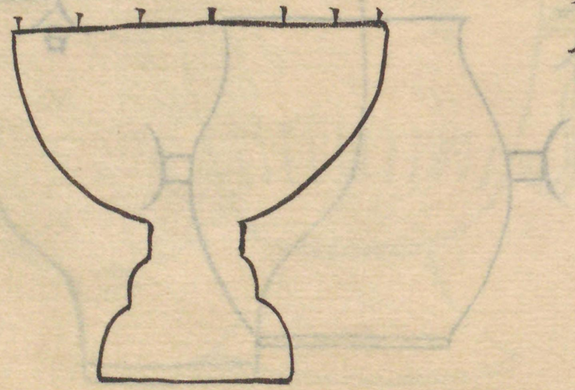


国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

志野宗箇香炉ニ用



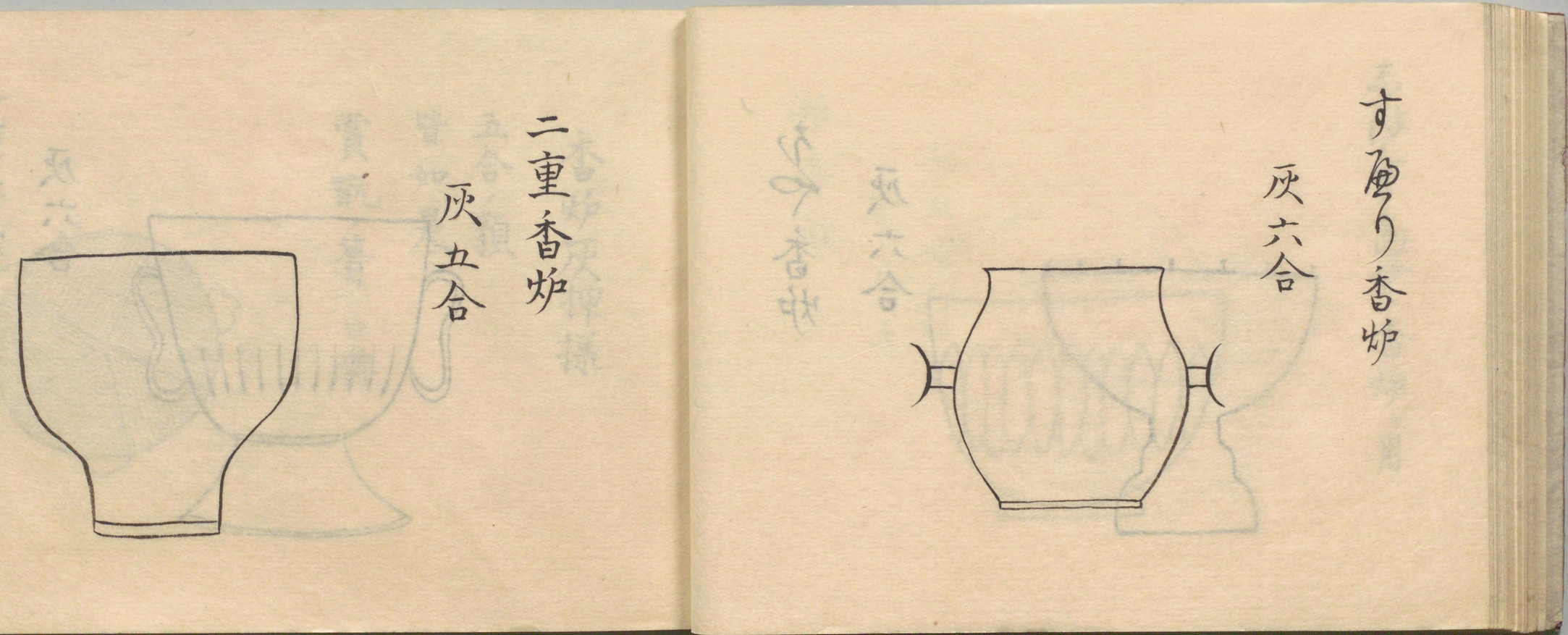


ちや香炉

灰六合

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用



二重香炉

灰五合

すゑ香炉

灰六合

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

二重香炉

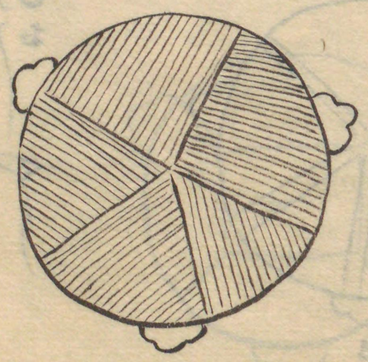
灰六合

香炉灰押揉

五合ノ類

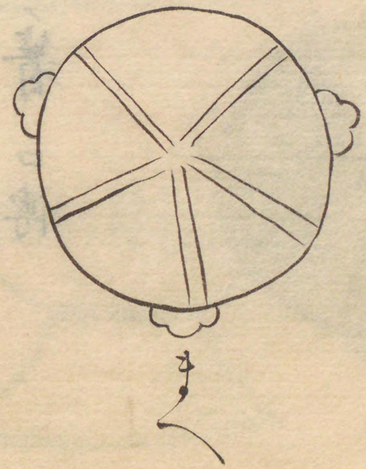
皆如是

賞翫ノ箸ロ傳



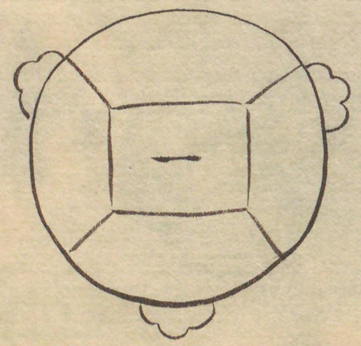
国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用



銀ノ置換

香ノ木也



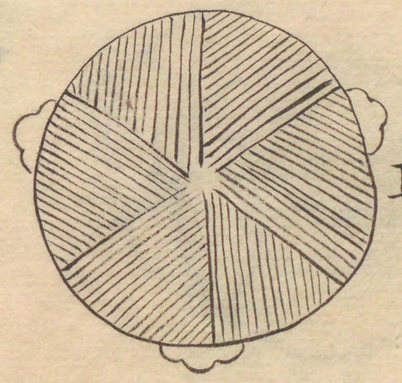
国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

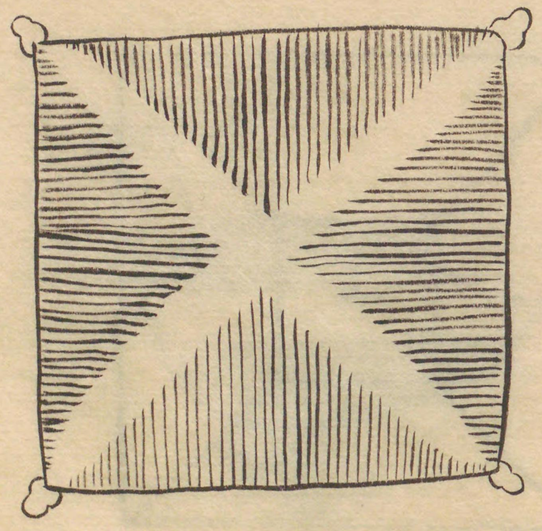
ガラス使用

六合ノ類

皆如是

銀ノ置ヤウ同前





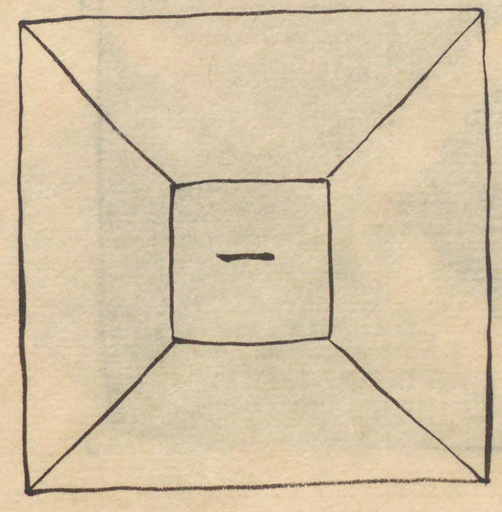
四角香炉

かくのごとし

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

同銀ノ置ヤウ

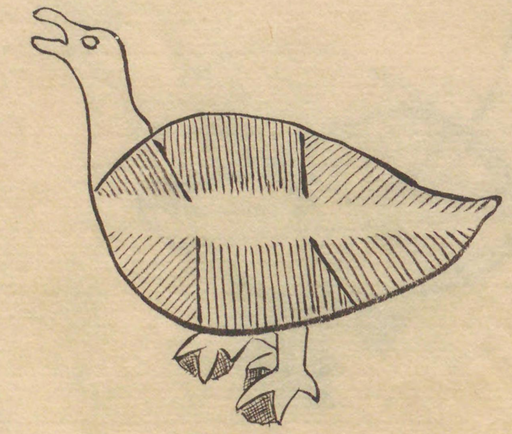


鴨香炉ノ灰押ヤウ

色々口傳有

御成ノ時計如斯押

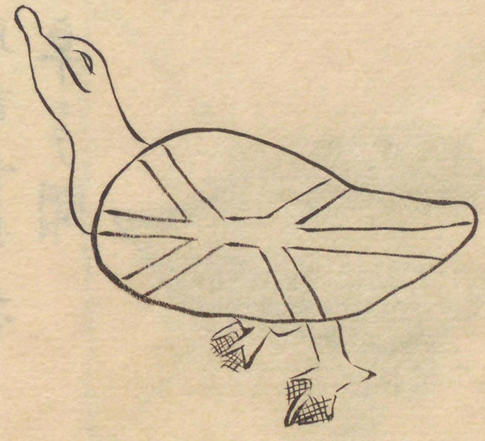
常ハ卓ニテ聞



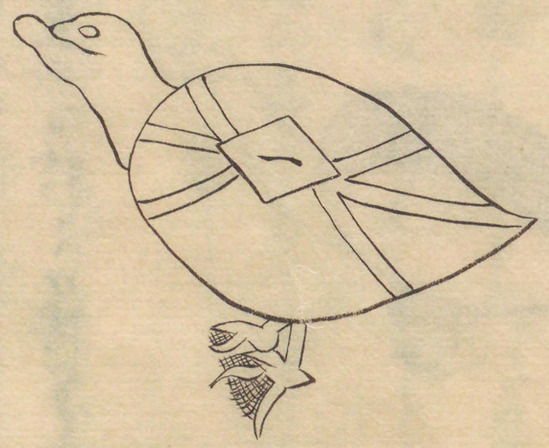
国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

同草ノもの



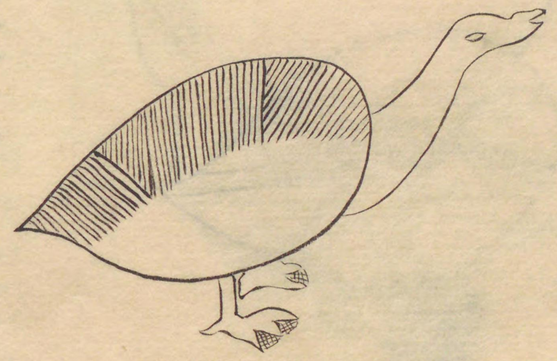
同銀ノ置ヤウ



国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

右まへの所要まへ如斯
重之通時所のもの一ツ同
事ゆゑ置而ハ略ス口傳者也



一銀の切やう口傳之事
一所の寸法口伝之事
一香の木ごとにそれ〳〵口傳
一箸目数ハ不定之事
一香炷の多よりて合ゆり
の数定ル事
一香炉の所香炉よりて
入ゆの口傳之事
一香炉の所あらめやう之事

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

法隆寺 号太子 東大寺 号春待蘭
逍遥 三吉野
紅塵 古木
中川 法華経
花橋 八橋
園城寺 迩加

以上十一種

似 富士烟
菖蒲 般若
大伽羅内 鷓鴣班

揚貴妃 青梅
飛梅 槙
伽羅迩加 漂
月禁中大内嬢 龍田
紅葉賀 斜月
白梅 千鳥
法華 追加内大臣
老梅 八重垣
追加 花宴
花雪 明月
賀 蘭子

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

阜　追加
橋　花散里
追加　冊霞或短哥
花形見　追加
上薫　須ヶ
明石　十五夜
隣家　夕時雨
手枕　晨明
雲井　紅
泊瀬　追加
霜夜　追加
寒梅　二重
早梅　追加
七夕　篠目
薄紅　薄雲
追加　上馬
已上五十種
都合六十一種也此内十二種
追加分
名香目錄春之部
日影の花　若菜下源

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2
ガラス使用

朝氣花　春
桃　柳　色
花藥　庭　梅
花漢　漢

夏之部

新樹　青葉
荷葉　樗　葉
杜若　五月雨
くたし玉　水葵
あやめ

秋之部

在明　八重菊
紅葉賀　くもで花
ア金　七夕
菊
三日月　玉蘭
初秋　夕霧
蔦花　初雁

冬之部

夕時雨
雪野

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

冬野　歳暮
林雪　竹雪
初雪　冬雪
小春

神祇之部

手向　男山　名所
大ぬさ

雑之部

薄雲　源
漣　水辺
川浪　水辺
松ノ戸
唐衣
山陰
新湊

浮嶋　水辺　名所
紅井
八重垣　居所
仙
夕暮
柴山
々
山

名所之部

大井川　初瀬
三吉野　明石

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

中川 源
なごへの
富士山
あくぶち橋
名越
泊瀬

源氏之部

花散里
浮舟
澪標

をし
三笠山
龍田
逢坂
音羽

須磨
橋姫
横笛

野々宮
椎本

水邊

葛川
白鳥

以上

松風

塩屋
濱水

かち枕 旅
あな墓
物清香

うたゝ寐 恋
横笛 網
ちぐみ

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

玄々　くろ〳〵
園碁　薄紅
名　いそ〳〵
中春　く〳〵人
すゝり　寸代
最中　ゑんく
すゝめ　おもく
沖外　橋
立舞袖　ゆく
角士帽　ゑんく
古訪友　山こう〳〵

まり紀　おく
蜘蛛　婆
手枕　十
さんけい　名
志屯　管

名香合目錄　八九女

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

一番

左　清碣直信秀

逍遥　　肖柏

右　柏憲

中川　　大碣

たのもさるものときゝおそ
荘子の逍遥柱乃こゝろもと
をつゝ出るやう有
待りぬる右の中川又花
やう立出はこゝちきの人

二番

左　二憲秀

法華経

右　種信郷　　祐憲

もをしるべやう有
なの一枝いかゝ
ふりそゝ申さる旨ひそ
ふりくく待を一番の
たゞれをそ方人いさゝ
数さり待りしや

注筆經と号せしの員あるを
"ありくく待るとまつ乃一
勝り宝為平一のうへいうう
中かくく待るを右の花又うう
おろくくまつ我
宝つ平一とまくうり
さまを空る旬之我良美
挽の理い冊枕もおとうは
うひ待ぐさん方人をひくして

勝劣定のた待りし

三番

左　柏清種信郷秀

漂零

右二

七夕

たなばたくとや立さは
おりろくすれるよう
待りて方人をくなる
まて我七夕も秋風も涼き

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

匂ひて幸のわらひもそうしくあとやさんれき

四番

左　柏二碣冨種郷

蘭子　玄清

右　清直

斜月　盛郷

らんすいあるくさきのほりかくまでをのく〳〵

よせかりき斜月も又桂なり
雨ふくせいあの勝ち声より
蘭子のかよりもうつくしき

五番

左　秀憲

紅塵　宗信

右　柏碣信郷

鷓鴣班　長秀

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

和漢雲をさそひ水をたくひあるくをつくし右の名をも
久しく匂ひすくれたる
江の面の雪よりもさむるけ
そくんと感じ侍りし
なをとたゝ此雨よ久し
色をおもふもあれい見ぬ
庵士の郷よおくれるとも
ゆくらん

六番
左

園城寺　大碣
右　庭儀一同
古木　祐憲

たの雪地ちくんをおそろしの白ひけ数なくて三舎のよをそ梅檀の香風ゆくらめそ侍りしよ古木い又をき世を道誉法師とやうやきをし春ある夢しの根さしみくれをなやきまてるんをそ

庭像一回ありしかゝやきそらに

七番

左　直種卿

雲井

右　柏二悪鴉

中川　宗信　行二

立のぼりくる雲井の名月及

いせの海をちひろの苔もる

もるふりくあれや右の

中川いさり出をふねしろ

いろすゝきなびきて黄河

のみなせ待そふる心ち

してそゝろを方人

あまそゝめそゝり起

八番

左　清悪

明月

右　種信

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

明月を花散見てめぐりあひ
そりしたゝ身のきそ
をもひたゝ春杜あ
そひつゝより
たゝしく後黄門の
約束をくそ
のこゝとそ参
そやそりのおも
いつまてさくそ

九番

左　二直

富士烟　　感

右　柏洁陽種帰

揚貴妃　　重

左の烟そ薄ふあきそりあ
右人志れぬ深閨のま
かくひく人ひそりし
かくや妙のかくその烟揚

の羽衣のたもと寿命の蓬
心ちよくうたひ舞童
子のさまをもえてれ
おもしろくぞ侍りし

十番

左 柏直種憲
隣家 長秀
右 揚秀信
花雪 宗位

左の手ぶりまて自ら
則なるへき徳もかくれ
しきやうくらき花雪
おそき更地のうへの
ゆかしう三尺のあや羽衣
まりあるまの例させて
さうしめりまも
やうくまて方人と
かくありしかたまる
そうし文庫
そう五月下の九日風

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

三條殿

茅庵西菴と
曾
吸露庵
玄
咲上軒
大

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

二階堂
行
松田丹後守
長
肥田左京亮
義
内藤大蔵丞
元
淺倉彌兵衛尉
盛
志野三郎右衛門尉
宗
同弥三郎
祐

二
秀直種卿信憑

右依深志之命書記進呈
之上若幾枝亳合口傳者
仍如件

天正第五暦二月吉辰

坂地与左衛門尉
宗宅
的傳
省巴
宗宅
宗魯

師雜話

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

一香爐我ものくゝ所作
をはそれおのく香爐
をとりそんあやそこ
爐一所のくゝおくし
をたんとんへ
爐を香爐をもきり
おくのひらをきく
銀いかくくりそり
をわり

一香爐足る四五のうをち
志ゐくくくく用ひ

くさる心

一神佛おの香爐おくこの
前ふていをきを神お
ものをしてものをくきを又
そのおとくをしをく
ありかけのまくて
香爐をものをしたそのも
くく心

一十姓の香爐のお志
りよりのい念珠院の
ものをくへそのも

いつまでもくちうつさ
の口伝なり
一情中の名ものくしの数は
東大寺 九 太子三 吉水三
一香ごとをいわくとも
いえた
一ちちしゃふ火をいうこと
こうとふのちいぬくと
するものもいふものぶんぬく
とふのよ
一香は舎十人ごとをさ
する

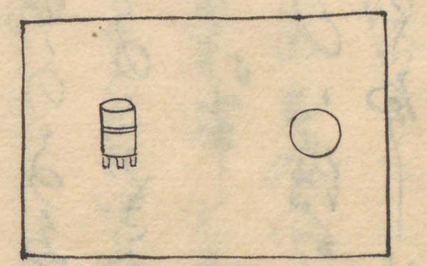
あり
一舎すきてそうれの角
をとり変よそう多紀す
一
一座のうちよおくの角き
ものの名をきものだ
ちものこうき香炉おし
つくりは筆 中るこ文字
わるひい綿のくい生角
よおく角一綿のくい生角
大ひふたのうよおくし

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

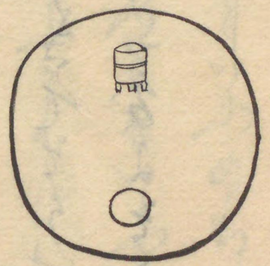
ガラス使用

盆よき名置合そろ

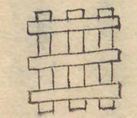
長盆



糸盆



右なりもの法あるべき香炉の
一ツ前をまたに垂へし
香をもとのうちへ香
いるゝ



十三ツ上二ツをくへし

これ天いろく地いおろく
ふきり初りいつまでつゞく
香や

一時の香炉用そなるべき
をそろそうけそろまこし

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

順逆のあるを也者口伝

一 うたてこのうち〳〵事をいふ事ありそれをものこ〳〵

一 まちうろいせいろう多の関よりをもてくる

一 名ありもちもる事

一 ちこわる志う女へ事ありわるふみかをくるよりもる事ありそれの用ひすへくらいきい口傳なり

一 十炷五十炷のかをいふ。ゐる。よ紀名ものも平もいふ

一 な紀組奥ものうい筆るうふれらも季数もちよるへ

初春のうい　朝霧

中春のうい　花　日影花

暮春のうい　花散里のうをくへそのひいろくなる為一花鳥をなきうおもしろ花ふ花形えのおいく　郭公ときうきうう

お越よ　　当初下をとり
列の者をもよりお
待る後一二枝へたてる
今一つ二つ夏のさしめ
ずとさした中にいあやめ
のごとくさし杜のさし
ふく初下中に月雪よ
紅葉をさしめよ
中に杜雪寸梨ふく
あるべくへ
一児のごとくきの席よ

新枕　多枕のごとくさしく
右の通家の句合ハ
なるの句ハりあるべく
新業なとハふく張雪五月雨
とハふくあやあるべく余ハ
あるべく
一句合よたくハふ名のとり
成るべくかうのかわひな
とり合せるべく雨たる
ハさきあふい妙さきを
次ハさきあふい次ハさきあ

国立国会図書館　　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

一貴人の席上沈香の吟ハ
おのりよ祝言ハ兵なく
あるし又兼帯なくて
くるしからず

一大皇ハ一尺余中皇ハ八寸
余小皇ハ六寸余

一香箱の大小二寸ばかりの
よし

一名香ハ香なきものの
なくてかなハざるを但し香が主ハ
なくてハ不可

一きんの切形　九一口傳

一其日数ハ三十日
一其ひのあるべき
一其炉よりの
くるしからず

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

一法華経とかうもるもの
あるものへ又一ふくそ
とかうるものありもいやう
一名香共こまてあそひ
まい二條めその志野
宗信あそりおそう
一所のやきあり一所を
そひも水花して日う
ほうそけよ入よくやき
又あへよ入り所の大サあと

いり一ッまむあり
まあ一ッ入く右のまあつ
いるくしそのちひさ
きりのまるとのうへよう
をくしめくのこくし
所の白ひをさへしまき
よくふるり
一所を押的さみのうく
うろをまそするのそ
ものうくそまもそ
一所あそひそそ

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

よむものうくなる
もり坂まわりて
やまのかなたれそ
やうい象をとる
一香炉は庄ときめ炉の内を
とりそめき朽くさく半
物一但南世いきめきを
よう角一きの柄
三寸五分まで一寸わ
角
一香をくゆりをたんくう

いつゝ一余りよ自ひきをえ
さるよんるの角一
一貝をとりてふさて
へ一口傳
なり

右一本者宗家正家宗秀
三代之間記名焉畢
右一本者吉田昌弘雅丈
之以奮本書寫畢

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

炷合

一炷合會日席子物いかにも
鳥ゝ山ゝ之類可然
花ハ香奥ゝ之事ゆへ
ひくめの物を拾ゝ本ゝ
歌十一の意にて吹
風

長盆錺之圖

但し人数多き時ハ重香
ゆへ二ツの事ゝ限ゝ
ゝもよし

席followed三ツ折りにし文臺
硯 料紙ゝ

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

亭主香をくゆらし香木をの
次客口傳去行草座のごとし
一香をふるう秘傳
一香持參本式香七八種
外に滿香沉水
此香組合せん法之事
一香盒客前に出し一炷ごとの
一寸の炷香を二度ごと
客自焚ごとく次ぐ後一種
投終を知らせ
一名香同二度ごと

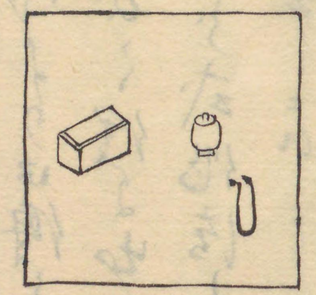
一常のごとく名香つゝんと
思ひ滿奈楠檀伽
一香終組合かゝる時客
一統ゝ組合ハ互に名香
取あてる時沉水をたく
南蛮沉水枝ノ用ル
一組合よく打雜を曝いきれ
枠ごとに投箸紙にうつし
ゝゝ一口傳
一あけ香ハ先客出發後亭
客の發給ふ次第ニ

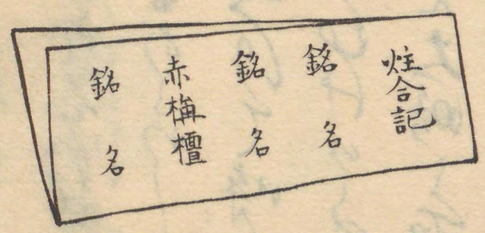
国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

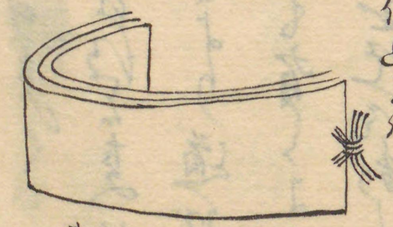
ガラス使用

人より法の如き香を
指授有るに又上座
よりも
一人数何人にても一通り焼
連衆のおのおの
一太子　蘭奢待
中書
一枝ずゝ香木銘位六国
て能吟味のうへ
香終りて亭主より
當のごとく清浄

を納さむる
仕立ハ
記録ハ杉原紙を
折







国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2
ガラス使用

六國列香辨

伽羅　　羅國

真南賀　　真南蠻與南蠻

寸閇多羅　　佗曽羅曽羅

是をこ國の列とい
いまも沉水香の
六種の内上品のものなり
他も伽羅去南蠻
杜多寸つ多羅の伽羅

ゆゑのまゝりあもみ
のこと〳〵長くをわ
きるの師伝を受
一種ずつを經緯をく
長切を通くおまふ
さもむへ〳〵六種の
わるの大器たよ
をとゝきるへ〳〵

伽羅

長くをゆやさ〳〵く位

昔をおもふ袖上ふ
自然とたもとをぬらして
優美なりし面たち
宮人のごとく

羅國

自然と白ひすをかけり白
檀のごとき白ひかりてあく
昔をうるおすごとく武士の
おもて

真南賀

白ひろく艶ありてゆく
ものうすきを上ふと白ひ
よくせばりたるいと女のうち
恨むるごとく

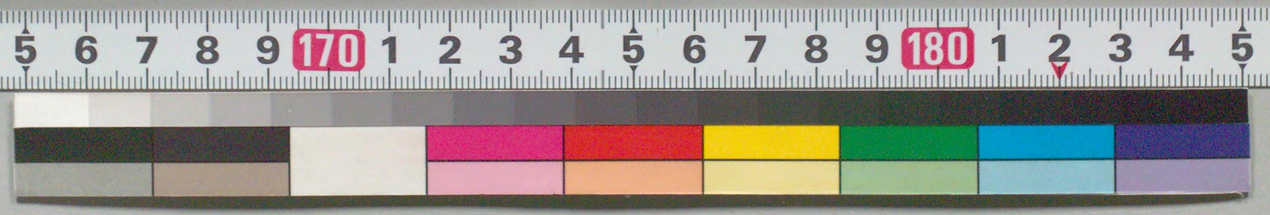
真南蠻

味甚をうるおし結氣
よく多く出るの志南蠻の

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

ガラス使用



五味之香

芽　淺間　先鋒

苦　面白　志

辛　薫風　孟荀

酸　京極　赤梅檀

鹹　白鷺　遠里

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

此十種五味の外一味立ありてこれを秘とす其の法あまたをもつて一味の事あるべし一味も五味も十種も皆香あれども此十種に用るの法あまねからず初心の人はこれをもつて初心のものとなすべし其ふかきにいたりては

芽ハ

蜜を移る匂ひの其よたる
（一）
苦い
黄柏の若よたるへし
辛い
丁子のつぼみにたるへし
酸い
梅のすえたるへし
鹹い
かせそりの鹹よたるへし

先布のふるよりくくて大ふ
を加へし牡蛎殻を焼て粉
名香ときく有り
きくく名香ときくといふ
ものありきくあるを香の上
に葉を結よ十五日ばかり
事いきくの久しく有ものあ
り花精中川いと真南かへ
志香窓の香ふれもきく
ゆる香へよ五をきくる
きくとふいあんみんのね

りなどと牡口伽などあり

新古

春の新古をまつ事の如く人新渡をまつ事の如く新しき昔の渡を好て古とし又白檀きゃらを古とし新古いろ〳〵ありて其まつ事等の渡有新渡よ古からむまつ事を去てのち新渡を古とし新渡を去てのち新

をまつ事を去てのち新渡を古とし新渡を去てのち新渡を古とし新渡を去てのち新渡を古とし新渡

又云季の口伝ありひそかに
次合まて四季を一柱名付
事もれ又口傳あるを

名香國分

伽羅

東大寺　道遥
三芳野　淡薬
紅塵　園城寺
似　盤若
黛　楊貴妃
玄宗　春梅
月　竜田
斜月　法華経
臘梅　八重垣

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

丹霞
薄紅
上馬
美蓉
縮
芳村
帶
子系
おま
人
翁

紅
薄雲
八重菊
山
陰
十
九
なる
ぞ
鳥
醤
れ
硯
烏
用木

常徳院
つゝみ
上巻
十六夜
梅風
手向
みゆき
花葉
篇木
九重
染衣

池
水
きも
杜
冊
ゆき
万
代
初
菊
川
淀
藥
玉
荳
菜
朝
都

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

糸
もの
面

新伽羅

花散里
千鳥
臥

富士烟
せ
し
新枕
冬
花水
小野
新

花
薄紅葉
難波
榊葉
木
曙

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

枯木　八橋
端午　鷲馬
二葉　きく
五更　軒梅
残雪　紅梅
窓梅　玉蘭
そこら　うつせみ
清風　かく山
野守　杜若

ゆき　黒香
女郎花　大内
小倉山　山下風
きく　かつらき
歳暮　逢坂
家中　秋風
八重櫻　松根
木下　花勝見
咎ヌ露

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

真南賀

蘆橋
臘梅
卯花
さみだれ
ながめ
立舞袖
秋
飛火野
暁露
白波

橋
元臘梅
梅雨
あけりの
一三寝
名殘の袖
秋野
二文字
忍
ゆめ枕

ふるさと
蔦
野分
日かげの花

春夜
さなの名ん
きく寸
宮城野

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）特1002-2

ガラス使用

真南蠻

中川　白梅
蘭子　寒梅
早梅　梢
七夕　須
ア
松
玉　風
あ
十六夜
若

杜
章

友千鳥

寸門多羅

六十種ノ内

臘梅　水ノ月
宰府　小塩山
松枝　あ
つま

三嶋江　住ノ江

亀

佐曽羅

法隆寺　ゆふされ

夕葉山　なるも

らつき　大敦

赤間関

赤梅檀

鶴見嶽

国立国会図書館　志野流香会之記（香道叢書56）　特1002-2

ガラス使用

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

特1002
禁帯

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用

国立国会図書館　志野流香会之記(香道叢書56)　特1002-2

ガラス使用